

輸出事業計画

※申請者名：常呂町農業協同組合、品目：にんにく

1. 輸出における現状と課題

当産地のところピンクにんじくは昭和４８年には作付面積が約１１６ｈａに及び常呂町の特産品となっていたが青森県に押され生産量は激減し、産地の再興に取り組んでいる現況となっている。現在まだ生産量も少ないが国内でのブランド化と並行して、海外でも販路を開拓しブランド力の向上を期待して取進めている。また、令和元年から地理的表示制度ＧＩ取得に向けての取組を実施しており、令和４年３月に第１２０号として登録を受けた。

海外への輸出については令和元年産より試験的に取り組んでおり、台湾で開催されている北海道フードフェアへ出品した。アジア圏内では北海道の知名度が高く、台湾の高級デパートでも高価格で販売されているため本格的な輸出を目指し、北見市と商談会に参加する予定であったが、新型コロナウイルスのため中止となった。今後、新型コロナウイルスが収束するタイミングで取組を再開する予定である。

2. 輸出事業計画の取組内容

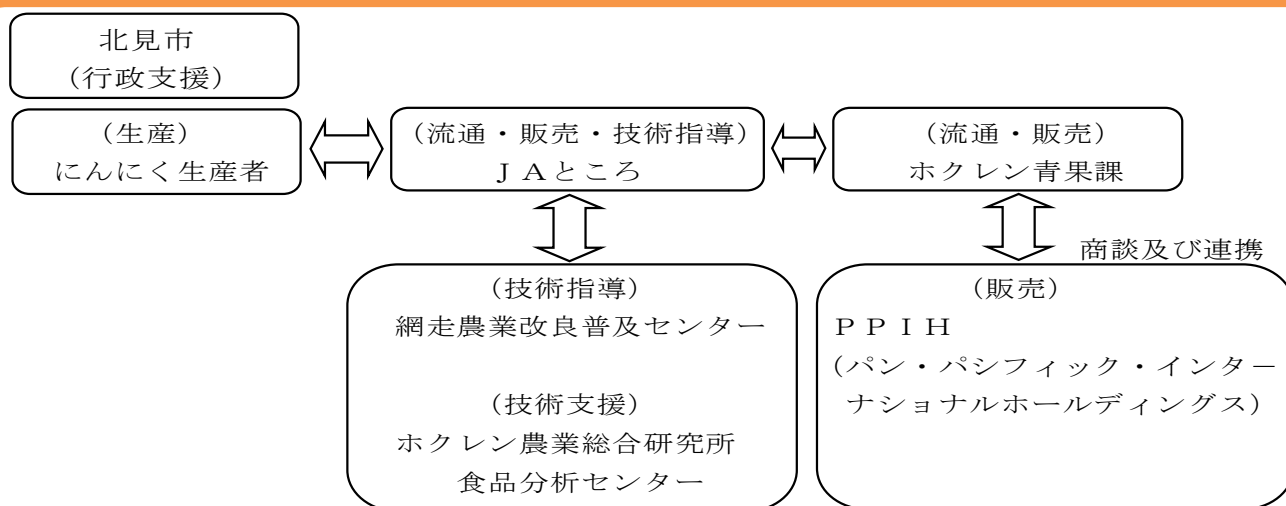
【生産面の課題と取組】

- ・課題①乾燥、調整等作業に人手が足りていない
- ・取組①乾燥・選果施設の導入等により生産コスト軽減を図る。
- ・課題②在来種のため、品質にばらつきが生じてしまい、海外バイヤーへの提案がしにくい。
- ・取組②「A」ところが定める種子増殖体系に準拠し、元種を定期的に更新することで安定的な品質確保に努める。

【流通面の課題と取組】

- ・課題①海外への輸出を見据え、長期貯蔵でも品質を落とさない工夫が必要
- ・取組①長期貯蔵に向け、鮮度保持フィルムの日持ち性向上効果を検証する。
- ・課題②国内でのブランド力が弱く、海外での売り込みに苦戦が予想される。
- ・取組②地理的表示制度 G I 取得により、ブランド力向上を目指す。
- ・課題③具体的な販売戦略をたてるための情報分析が不足している。
- ・取組③ところピンクにんにくの現地での評価等を収集・分析し、具体的な販売戦略を検討する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状 (令和 2 年)	目標年 (令和 8 年)	備考
常呂地区	輸出額	42 千円	350 千円	現状試験的
	輸出量	0.024 t	0.2 t	
	輸出先国	シンガポール・台湾・香港	シンガポール・台湾・香港	
	生産量	45.5 t (R2 実績)	160.0 t	